

社

会保障費の膨張は財政の
圧迫要因の一つだが、今
後は年金以外でも、医療

・介護費が急増する。2000年
には900万人にすぎなかった後
期高齢者（75歳以上）が25年には
2000万人に達するためだ。特
に、都市部に住む高齢者が急増す
る。その象徴が、特別養護老人ホ
ーム（特養）の入所待機といった
介護施設の不足問題である。

厚生労働省の数年前の調査結果
によると、08年10月時点における
特養の入所申し込み者は全国で約
42万人となっており、入所定員と
ほぼ同数だった。

もつとも、「入所申し込み者＝真
の入所待機者」とは限らない。と
いうのは、特養の入所申し込み者
に対する真の入所待機者の割合は
平均22・5%との報告もあるから
だ（10年の第34回社会保障審議会
・介護保険部会資料）。

真の入所待機者とは、特養への
入所を申し込んだ者のうち、要介
護度や介護の必要性などが入所基
準に合致した者を指す。そうする
と08年10月時点の真の入所待機者
は、約9・5万人（＝42万人×22

数字は語る

法政大学准教授
小黒一正

特養の入所待機者が急増 110兆円の社会保障費の 資源配分見直しが急務

13.5 万人

2020年の特別養護老人ホームの入所待機者

厚生労働省の調査と社会保障審議会資料、人口推計を基にした試算

・5%）と予測できる。
では、入所定員が一定の場合、
真の入所待機者は将来どの程度増
加するのか。国立社会保障・人口
問題研究所の将来人口推計（出生
中位・死亡中位）によると、20年
の75歳以上の高齢者は08年の約1
・4倍になる。従って真の入所待
機者は20年には約13・5万人（＝
9・5万人×1・4倍）に増加す
ることが予測される。

この問題を解決する一つの方法
は、約110兆円の社会保障予算
の資源配分を見直すことだ。例え
ば、約50兆円の年金給付総額の1
%を削減するだけで、年間0・5
兆円、10年で約5兆円の財源が調
達できる。有料老人ホームの建設
データを参考に、1戸（専有部分
20平方メートル、共有部分20平方メートル）の
建設費を1000万円（土地代込
み）とすると、年間5万戸（＝0
・5兆円÷1000万円）が供給
できる計算だ。3年で約15万戸を
供給でき、20年の入所待機者13
・5万人を十分に収容できる。
このような視点も含め、社会保
障改革が進められることを期待し
たい。